2026 年 9 月 8 日

GMO AI&ロボティクス商事株式会社

GMO AI&ロボティクス商事、国内初の人型ロボット（ヒューマノイド）専用保守車両「GMO ヒューマノイド救急車」を 2026 年 9 月に導入開始

～故障・トラブル時に駆けつけ対応、ヒューマノイド社会実装の新たなインフラの構築へ～

GMO インターネットグループの GMO AI&ロボティクス商事株式会社（代表取締役社長：内田 朋宏、以下、 GMO AIR）は、人型ロボット（ヒューマノイド）専用の保守車両「GMO ヒューマノイド救急車」を、2026 年 9 月に導入いたします。

「GMO ヒューマノイド救急車」は、人型ロボット（ヒューマノイド）の故障・トラブル時に駆けつけ、現場で診断・修理対応や代替機提供を行う、国内初(※1)の専用車両です。GMO AIR が導入を手がけた機体の保守に活用します。人型ロボット（ヒューマノイド）が社会で本格的に稼働する時代には、機体が止まったときに現場へ駆けつける仕組みが不可欠になります。GMO AIR は、その未来に必要となるインフラを先取りして自ら保有し、実際に使いながら知見を蓄積してまいります。

(※1) 当社調べ。人型ロボット（ヒューマノイド）保守に特化して設計・導入された専用車両として。2026 年 9 月時点、日本国内 Web 調査

【GMO ヒューマノイド救急車とは】

「GMO ヒューマノイド救急車」は、GMO AIR が導入を手がけた人型ロボット（ヒューマノイド）を想定して設計した車両で、故障・トラブル発生時の現場での診断・修理に対応します。その場での修理が難しい場合は、車両に積載した代替機と交換し、機体を修理拠点へ搬送します。本車両は GMO AIR の自社設備であり、出動の可否は機体の状況や当社の運用体制に応じて個別に判断いたします。

■国内初の専用車両

人型ロボット（ヒューマノイド）の保守に特化した設計の専用車両を導入します。専用車両には、人型ロボット（ヒューマノイド）の診断機器、主要部品、修理工具を搭載し、現場での診断・修理を可能にします。その場で修理が完了すれば、人型ロボット（ヒューマノイド）の稼働停止時間を最小限に抑えられます。また、その場での修理対応が難しい場合は、代替機と交換したうえで、GMO インターネットグループのフィジカル AI 開発拠点である「GMO ヒューマノイド・ラボ 渋谷ショールーム」等、必要な修理環境への搬送を速やかに実施します。

■デザインへのこだわり

「GMO ヒューマノイド救急車」の専用車両の内装・外装デザインを手がけるのは、国内外で活躍する森田恭通氏（GLAMOROUS co.,ltd. 代表）です。車両は世界の救急車両のデザインを参考に、視認性と機能性を両立した独自デザインを採用しています。

【背景】

世界のロボット市場は急速に拡大しており、世界的なコンサルティング会社によるレポート（※2）では、2040 年までに約 60 兆円規模に成長すると予測されています。日本政府は 2026 年 4 月の第 2 回 AI・半導体 WG で示された『AI ロボティクス戦略』において、日本のロボット産業が世界シェア 3 割超を獲得し、2040 年に 20 兆円の市場を獲得することを目標に掲げています（※3）。

海外でも、ロボットの保守体制を整備する動きが進んでいます。中国の JD.com（京東）は 2026 年 4 月、人型ロボットや四足ロボットなどを対象に、修理・故障診断・バッテリー交換などを行う「机器人救护车（ロボット救急車）」の提供開始を発表しました（※4）。

GMO AIR は、人型ロボット（ヒューマノイド）を現場で動かし続けるためのインフラ構築を進め、GMO インターネットグループが約 30 年にわたり培ってきたノウハウを活用し、本格的な社会実装を支えてまいります。

(※2) McKinsey & Company「Will embodied AI create robotic coworkers?」（2025 年 6 月 30 日公表）における多用途ロボット（汎用ロボット）市場のベースケース予測（2040 年に約 3,700 億ドル、1 ドル＝160 円換算で約 59.2 兆円）に基づく。
https://www.mckinsey.com/industries/industrials-and-electronics/our-insights/will-embodied-ai-create-robotic-coworkers

(※3) 2026 年 4 月 3 日開催「AI・半導体ワーキンググループ（第 2 回）」資料 4-1「AI ロボティクス戦略～社会実装を加速し、巨大市場を切り拓く～ 概要」（内閣府掲載）に基づく。2040 年に世界シェア 3 割超、20 兆円の市場獲得を目指す目標は、ヒューマノイドに限定せず、日本のロボット産業全体を対象としています。
https://www8.cao.go.jp/cstp/ai/ai-semi_wg/2kai/siryo4_1.pdf

(※4) 京東物流「京东物流黑板报」発表記事「行业首创！京东推出“机器人救护车”，上门维修已覆盖全球多国」（2026 年 4 月 15 日、新浪財経転載）に基づく。
https://finance.sina.com.cn/roll/2026-04-15/doc-inhuqsme4668014.shtml

【代表者コメント】

GMO AI&ロボティクス商事株式会社 代表取締役社長 内田 朋宏

人型ロボット（ヒューマノイド）が社会に定着するためには、『動かし続けること』が不可欠です。ヒューマノイドを導入しても、故障時の対応体制がなければ、本格的な社会実装は進みません。

「GMO ヒューマノイド救急車」は、人型ロボット（ヒューマノイド）の緊急事態に専用車両で駆けつける、国内初の取り組みです。日本で人型ロボット（ヒューマノイド）を動かすためのインフラを、GMO インターネットグループの総合力で構築してまいります。

GMO インターネットグループが約 30 年で培ってきたインターネットインフラの運用ノウハウを、人型ロボット（ヒューマノイド）インフラに応用します。

【今後の展望】

GMO AIR は、「GMO ヒューマノイド救急車」をはじめ、人型ロボット（ヒューマノイド）の導入後の運用を支えるサービスを順次拡充してまいります。

GMO AIR は、人型ロボット（ヒューマノイド）を「販売して終わり」にするのではなく、導入から稼働、改善、保守までを継続的に支えることで、日本における人型ロボット（ヒューマノイド）の本格的な社会実装を推進してまいります。

【GMO AIR について】（https://ai-robotics.gmo/）

GMO AIR は、AI・ロボット事業を担う総合商社として 2024 年 6 月 18 日に設立されました。「ヒューマノイド派遣サービス」「GMO ヒューマノイド.shop」「GMO ヒューマノイド・ラボ 渋谷ショールーム」をはじめ、人型ロボット（ヒューマノイド）の社会実装を支える多様なサービスを展開するとともに、GMO インターネットグループの強みであるインターネットインフラ・サイバーセキュリティ・金融サービスをあわせてご提供することで、安全で持続可能な未来の実現を目指します。

・お問い合わせはこちら：https://ai-robotics.gmo/contact/

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社
グループ広報部　PR チーム　田部井
TEL：03-5456-2695
お問い合わせ：https://group.gmo/contact/press-inquiries/

【GMO AI&ロボティクス商事株式会社】（URL：https://ai-robotics.gmo/）

会　社　名	GMO AI&ロボティクス商事株式会社
所　在　地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー
代　表　者	代表取締役社長　内田 朋宏
事 業 内 容	■AI 導入・活用支援 ■ロボット・ドローン導入・活用支援
資　本　金	1 億円

【GMO インターネットグループ株式会社】（URL：https://group.gmo/）

会　社　名	GMO インターネットグループ株式会社　（東証プライム市場　証券コード：9449）
所　在　地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号　セルリアンタワー
代　表　者	代表取締役グループ代表　熊谷　正寿
事 業 内 容	持株会社（グループ経営機能） ■グループの事業内容 インターネットインフラ事業 インターネットセキュリティ事業 インターネット広告・メディア事業 インターネット金融事業 暗号資産事業
資　本　金	50 億円

Copyright (C) 2026 GMO AI & Robotics Corporation All Rights Reserved.